

# よきおとずれ

カトリック釧路教会だより  
第12号 (2018年8月19日) 発行



## ベトナム人技能実習生

洗礼者ヨハネ 内藤 孝文 神父

6月15日の午後、根室の水産加工場で働いていたベトナム人技能実習生たち

20名が3年の実習期間を終え、帰国のため釧路空港をあとにしました。

この中に4人の信者がいました。彼女達とは約1年のかかわりでしたが、教会によく尽くしてくれた4人でした。

根室教会（根室カトリック幼稚園舎の一部）は、ベトナム人技能実習生で持っているのが現状です。毎日曜日のミサには、多い時で15人、少ない時でも10



人ほどが来ます。何度か、ミサの後に彼女達を会社の寮まで送ったことがあります。その距離がかなりあることにびっくりしました。歩けば30分以上はかかるはず。冬の冷たい風が吹きつける中、彼女達はその道を毎週歩いてミサに来るのです。9時30分からのミサですが、時間通りに始めることはありません。私の時には、彼女達が着いてからミサを始めるようにしています。でも、そ

れでも遅れて来る人もいます。或る時、訊いたことがありました。朝の8時まで仕事をして、ミサの許可をもらって来た。これから帰って、また仕事、と話した女性がいました。私は、なにも言えず、頭を下げることしか出来ませんでした。色々なことが浮かんで・・・。

去年の待降節のことです。彼女達に「馬小屋

を作ってみない？」と話したら、皆、歓声を上げて「やりたい。やらせて」と言って作ってくれました。後で彼女達から聞いたことですが、飾りや電飾などを皆で分担し、それぞれインターネットで取り寄せ、夕方までか

かって作ったということでした。出来上がった馬小屋は、私が見慣れている馬小屋とは違い、南国ベトナム風？トロピカルな馬小屋でした。

また彼女達は、高齢者を大切にします。これは、おそらくベトナム人という民族性から来るものと思いますが、逢えば必ずその人達を気遣います。

15日に帰国した4人は、教会に来る実習

生達の中でも、中心的な役割を担ってくれていました。仕事が入っている日を除いては、ミサ後のお茶の時間に残る実習生達の中に何時も彼女達はいました。

外国人技能実習生・・・聞こえのいい言葉ですが、その過酷な実情は皆さんも報道を通して知っていると思います。おそらく根室の彼女達も、例外ではないと思います。それでも教会での彼女達は、そんなこと関係ないというような、屈託の無い笑顔を見せてくれます。ミサが終わっても、長く聖堂で祈っている女性もいます。離陸して見えなくなるまで展望デッキにいました。

4人にとって教会は、どんな存在だったのだろうか？そして、今もミサに来るベトナム人技能実習生達にとって、どんな存在にならなければならないのか？



## ラザロ神父様インタビュー①

### 思い出すまに

私はベニスから70キロほど北東のアルプスの麓、ヴィットリオ・ベネトという人口3万人程の町で1931年4月21日に生まれました。今年87歳になりました。

この故郷の教区は教皇ヨハネ・パウロ一世が司教の時に赴任された教区で、彼は後にベニスの枢機卿を経て教皇になりました。

父は税務署に勤める公務員で趣味は家庭という程、神と家族を大切にしました。

私は9人の兄弟姉妹の3番目で長兄は11歳で小神学校に入りました。当時は戦争中ではなかなか兄に会えませんでした。やっと休暇で帰ってきたある晩、寝る時に突然、「あなたも修道院に入るでしょ？」と言うのです。

私は何も考えず「はい」と答えていました。翌朝、父も私に神学校に入りたいのかと尋ねるので、また何も考えず、気がつけば「はい」と答えていました。

その年の10月、母に連れられて、地元の小神学校に入りました。14歳でした。亡くなられたカリシモ神父さまとは、その神学校で同級生でした。その時から現在まで修道生活73年、後悔したことはありません。いつも聖霊に導かれ、マリア様に支えられて、歩んできました。

上の二人が司祭になったので両親は弟を頼りにしていたのですが、その弟も社会人になってから神学校に入り、司祭になりました。“神の望みであれば”と両親は納得したようです。この弟はスポーツ好きでファイトがあり、宣教師として南米に派遣され、現在はガテマラで70人の障害を持つ子供たちとシスターやボランティアの学生たちと暮らしています。ガテマラは内戦が続き、政情不安定でこの施設も国や市の援助はなく、善意の献金のみで運営されています。ですから弟は休暇でイタリアに帰国してもベネチア州内を走り回って衣類や車椅子、洗濯機や献金を集めています。彼には休暇中でも休みがないようです。それでもこの仕事に命を懸けて、30年以上も頑張っています。神のみ摂理ですね。

今回は来日してからと、それを支えてくれた「祈り」についてお話ししたいと思います。

(文責：堀内優子)

\*この原稿はラザロ神父様にお話しいただいた内容を堀内さんがまとめてくださったものです。

## 平和をつなぐ

マリア・カタリナ 溝口 久恵

毎年、平和の為に捧げられた期間 8月6日～15日を「日本カトリック平和旬間」といいます。マリア様の被昇天の祭日である8月15日...この日は多くの地域でお盆にあたり終戦の日でもあります。8月は平和への願望ではなく具体的に語り、行動する事、私はそう思っています。

5月には 憲法第9条の件で 署名呼びかけをしました。おかげ様で 65名の御署名を平和協議会に提出致しました。御協力ありがとうございます。また、5月27日は脱原発学習会が釧路パウロ教会さんで行われました。再生可能エネルギー（自然エネルギー）でご当地電力での地域活性化を目指す町の話など、原発ではないその他のエネルギーへの関心を大きく持ち、その中で節電や安全意識を高め「神の民として正義を行うこと」を会場の皆様と自覚しました。北海道、東北に風力発電を設置するとしたら日本の電力は賄えるという興味深いお話もできました。スゴイことですよ！！

それから、私事です、4月23日の「奇跡の1週間 辺野古座り込み 500人行動」に

参加しました。与那原の 聖クララ修道院に宿泊し、フィリピン生まれの 宮城涼子シスターのお話を聞きました。シスターは 聖フランシスコの精神に従い修道服でカミンチューとして座り込みを続けていると力強いメッセージを頂き 理解を深めました。座り込みは 沖縄の伝統らしいです。土地を奪われ武器を持たない農民の抵抗運動でした。この 非暴力の闘いは 辺野古や高江の座り込み運動となっています。4月23日初日の午前中はトラックを1台も通しませんでした（土砂を持ち込ませない）。そのため怪我人が多く出て、私は救護にまわりました。実は機動隊に囲まれゲート前に行けなかったんです（詳細は 369 ネットみるくゆがふぬにげー5/3に記載されています\*）。

\*369 ネット

[\(https://mirukuyugafu.jimdo.com/\)](https://mirukuyugafu.jimdo.com/)



## たくさんのあいにくで

小池フェルナンダ

きよねん、ほっか おおきなうみをはじぐんまからひっこしいにふれて、まいにています。



いどうにきてもうすぐ1ねんになります。めてみました。

てきて、ふあんでしたが、たくさんのひとのあちとてまたのしくすごせています。かんしゃし

\*小池さんは昨年、転入され、釧路で働くフィリピン女性たちのまとめ役、侍者をしてくださっています。慣れない日本語で一生懸命書いてくださいました。

## カトリックとの出会いから受洗まで

幼少時、人見知りがひどかったにも関わらず、釧路カトリック幼稚園に無理やり入園させられた私は幼稚園が大嫌いで毎日泣きながら登園していました。そんな中でも、小さな手を合わせて必死にお祈りをした記憶があります。「天にまします我らの父よ…」と。

食べ物の好き嫌いが激しかったせいで給食で出される調理パンが食べられません。今では笑い話になりますが、幼稚園開園以来、例がないと言われましたが1年間だけの約束でパンを持参していきました。それも年長になりパンを持参できなくなると給食日は毎回居残りでした。他に記憶に残るエピソードとしては聖劇でのこと。きれいな衣装を纏った天使の役が本番1週間前にボロボロ衣装のイブ役に変更となってしまったことで



ベルナデッタ・ラファエロ 渡部 明美  
す。それは、子供心に大ショックでした。やがて時が過ぎ、娘が二歳で入園、私たち親子は入園と同時にカトリックへの信仰の種が心の中へ入りました。私が釧路教会に足を運

ぶことになったのは些細なご縁で主がお導きくださったと感じています。今、わたしは渡辺神父様のもと、貸していただいた数冊の本を読み、感想を述べたり、次回の予習をしながら学びの時間を得ています。いつの

日か訪れる洗礼に向け、心の芽を枯らさずに進んでいくつもりです。そして将来、娘が子を持った時に心の中の種に水を差すのが私の役目だと感じています。

これから先、カトリック信者として皆様に受け入れていただけますよう、日々努力していきたいと思います。子供のころに出会ったイエス様、マリア様との再会に感謝

## 編集後記

聖母被昇天、おめでとうございます。私がかのころ、被昇天が初聖体の日でした。初めてのご聖体の味は記憶に薄いですが、ベールと白のドレスを着て、皆さんに祝福されたことは思い出します。

19日に洗礼の恵みに与るお二人の方が、豊かな信仰生活を送れますよう祈ります。

(N. K)

カトリック釧路教会 〒085-0018 釧路市黒金町12丁目10

TEL 0154-22-5823

FAX0154-22-5832

教会だより 編集：広報委員会